

専業主婦と有職主婦の調理に関する意識について ～食用油を中心に～

○松山綾、小林愛子、森川聡

日清オイリオグループ(株) 生活科学研究室

【目的】

近年、未婚女性の理想とするライフコースは、専業主婦を理想とする割合が減少し、両立（継続就業）と再就職を理想とする割合の合計は増加している。また、少子化対策基本法が施行され、仕事と家庭・子育てを両立を促進する官民一体となった運動が行われていることから、今後も結婚後も職を持つ女性（有職主婦）は増加すると考えられる。そこで、本研究では専業主婦と有職主婦の調理に関する意識、実態の違いを、食用油という観点から調査した。

【方法】

調査対象：全国 20～50 代の既婚女性 479 人

調査方法：2 郵送調査、母集団での年齢構成比を再現するようにウェイトバック補正を適用

調査時期：2006 年 10 月

質問項目：食用油の購入、調理、調理後の片付け、お惣菜に関して等、計 102 問

【結果と考察】

対象 479 名のうち、専業主婦は 239 名、有職主婦（派遣社員、パートを含む）は 232 名であった。新しい調理法である揚げ物風調理の認知度について聞いてみたところ、有職主婦と専業主婦の違いは見られず、職の有無を問わず、調理に関しての情報は入手していると思われた。しかし、揚げ物風調理の調理意向について聞いてみると、専業主婦の方が「調理してみたい」と考えている人が多く、専業主婦の調理に対しての関心の高さが感じられた。

最もよく作る料理について聞いてみたところ、有職主婦は専業主婦に比べて「カレーライス、丼物など」と答える割合が高い一方で、専業主婦は、「焼き物」と答える割合が高かった。「カレーライス、丼物など」は一品で一食となることから、家事に割ける時間の限られている有職主婦に好まれると考えられる一方で、「焼き物」はグリルを使用することが多いため、使用後の掃除に対する負担から調理を遠ざけられていることが考えられた。

食用油に関する情報・知識として欲しいものについて聞いたところ、専業主婦は「油の使い分け方」「調理法」等油を使用することに関する項目があがったのに対して、有職主婦は「油汚れの落とし方」「保存方法」等調理後の片付けに関する項目が多くあがり、調理後の後片付けの負担感が調理のバリエーションを狭めている可能性が推察された。

【結論】

有職主婦が増えるであろう今後は、限られた時間で無理なく行える家事スタイルが益々増加すると考えられる。これらの実現に寄与できる、調理準備～調理後の片付けまでの包括的な情報提供（食育活動）を行う必要がある。